

総領事からの活動報告(2月)

<米・中南米関係に関するフェルナンデス米国務次官補の講演他>

2013年2月

在マイアミ日本総領事

川原 英一

最近の話題・当館活動から、以下をご紹介します。

◆米国からみた最近の中南米(米国務省商務担当次官補)

2月7日、当地コーラルゲーブル市の代表的建物であるビルトモア・ホテル内で、中南米政策に関する米国務省フェルナンデス経済・商務担当次官補(右側写真)の講演が行われました。



注目されたのは、(1)米国からの輸出の4割は中南米地域で、最大輸出地域であること、米国で働く中南米系労働者の本国送金額は年間550億ドルにも達すること、(2)2010年までの10年間に新たな中産階級として5千万人が中南米諸国で誕生し、公共サービス、教育サービスへの要求レベルが高まっていること、(3)オバマ大統領は、中南米の若者に良質な教育機会を提供するため、10万人の米国と中南米諸国学生交換計画を推進中であること、(4)ワールド・サッカーやオリンピックが予定されるブラジルでは、2016年までのインフラ事業見込額が470億ドル規模であり、他の中南米諸国でもインフラ整備が見込まれるが、米国企業からの参入が少なく、今後、中小企業を中心に中南米インフラ市場への参入を奨励すること、また、

(5)米国は、メキシコ・ペルー・チリなど中南米諸国とアジア・太平洋諸国間で自由貿易協定(TPP)を交渉中であり、同交渉がカバーする11か国人口は、世界人口の3分の1に相当し、各国市場アクセスに関する公平かつ透明性あるルールを共有するため知的財産分野等での新たな世界標準となるルールを生み出す交渉であり、同協定交渉の重要性に着目してほしい旨指摘がありました。

◆「日米音楽の夕べ」(ミニコンサート)

2月26日、当方公邸で「日米音楽の夕べ」と題するミニコンサートを行いました。演奏をして頂いたのは、日米でご活躍中のバイオリニスト大津純子様(左写真)、イレーナ・コフ



マン先生(ピアノ)、エスター・ハーデンバーク/マイアミ大学音楽スクール準教授(ソプラノ)のお三方です。日米の過去1世紀にわたる名曲演奏があり、ゲストの皆様は当地では聞く機会のない日米の調べに大変な感銘を受けておられた様子でした。

公演終了後、多くの方から、驚くべきほど美しい曲を聞けて本当に素晴らしい企画であったとのこと感想がありました。

演奏曲目は、大津純子様御編曲の「津軽山唄」、山田耕作作曲「からたちの花」、中田喜直作の「おやすみなさい」、滝廉太郎作「荒城の月」、Gershwin の[someone to watch over me]、エミー・ビーチの「Ecstasy」など名曲ばかりでした。

特に、津軽山唄は、美しい東北の山々の季節の移り変わりをイメージした美しい音色のバイオリン演奏でした。また、からたちの花を謳って下さったハーデンバーク先生(マイアミ大学)の美しい日本語にも感銘を受けました。



ゲストの方々には、スレスニック・コーラルゲブル前市長夫妻、マイアミ近郊で600人規模の従業員を擁する日系企業NOVEN社(久光製薬)ジョーンズ副社長夫妻、マイアミ



大、フロリダ国際大、フロリダ・アトランティックの各大学教授夫妻、ロドリゲス米國務省地域事務所長、当地マイアミ・ヘラルド紙イヤーウッド国際デスク、同紙経済記者、日本ゆかりの森上美術館・日本庭園トラスト・ボード(TB)のシュニットマン副理事長夫妻、マイアミ歴史博物館TB会長メスネコフ夫妻、マイアミ市や当地学校関係者の方々がおられ、これらゲストの皆様から演奏者への感謝の言葉が相次ぎました。

(写真上:「からたちの花」を謳うハーデンバーク先生)

◆フロリダ国際大学(FIU)ホスピタリティ学部関係者と懇談

1月29日午後、FIUのホスピタリティ・マネジメント(HM)学部の副学部長のUpchurch先生を訪ねました。マイアミビーチがみえるフロリダ国際大学(FIU)ビスケー

キャンパス内に HM 学部が1972年に開設され、現在、同学部学生は、修士課程も含めて2千名です。また、中国の天津(商科)大学にある FIU の HM 分校にいる学部学生は



1100 名とのことで、毎学期、本学部の先生方がシフトを組んで中国に出張、3-4 年生の中国人学生を対象に英語で教えているとのことでした。インターネットを利用した FIU のキャンパス内でのビデオによる遠隔教育がされている各教室やラボがあり、ご案内頂きました。

同学部内の各教室には、ハイテク技術を利用した教室、生徒用パソコン自習室が完備されて、大画面 TV 映像に映し出される財務諸表など資料を見て学んでおり、また、超大型の厨房施設(現在、新たに増設工事が最終段階にありました)では、欧州・アジア各国の料理も教えている様子でした。ホテル産業やクルーズ産業での多様なサービスに対応した実践的授業を行っており、卒業生は、これら業界への就職するものが大多数との説明でした。目を惹いたのは、ビールやワイン醸造をしたりする自前の施設があって、バイオ専門の先生が醸造方法を教えたり、ワインの試飲をしながら、光にあてた色などからワインの年数などを知る術まで、授業(右写真)がされていることでした。日本の大学の観光学部では、こうした実践的教育、ラボ、大型厨房施設、さらにはハイテク技術を利用した遠隔教育の完備されているところは、未だないように思われます。



◆森上美術館における生け花デモンストレーション

2月4日、マイアミから1時間ほど北にあります森上美術館・庭園内のシアターで、恒例の生け花デモンストレーションがありました。森上ボードの副理事長(文化担当)三堀千栄子様が、ユーモアを交えながら、生け花の基本をわかりやすく説明しつつ、観客の前でデモンストレーションをされておられました。



今回も、誠に手際よく、かつ、見事に次々と作品を生けておられました。ひとつひとつの作品が瞬く間に出来上がり、その度毎に観客から大きな拍手が沸き

起こっておりまして。色とりどりの美しいお花をお使いでしたので、お聞きしたところ、ペルー、コロンビアなどからマイアミ空港に毎日空輸されている生花をお使いされているとのことでした。

◆マイアミ補習校 学芸会

2月16日(土)午後、補習校恒例の学芸会がありました。幼稚園児、小学生から中学三年生まで、興味深い内容の学習発表がありました。児童生徒の皆さんは、短い練習時間で堂々と発表をされており、驚きました。幼稚園児のクラスでは、言葉遊びやここでの友達是一生のお友達、という歌を大変上手に歌ってくれました。大きな声で表現力豊かな4年生、上方落語の「そうべい極楽へ行く」を輪読してくれた3年生、日本の四季を読む歌人の歌・漢詩を紹介してくれた6年生、アイスプラネットを題材とした物語を紹介してくれた中2生徒さんなど、どの学年も大変に豊かな内容であり、元気一杯の発表ぶりに感動しながら拝見させて頂きました。



((了))